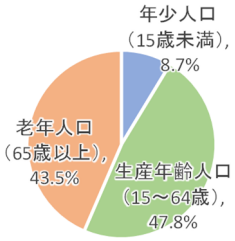
3－01

諸　寄（もろよせ）

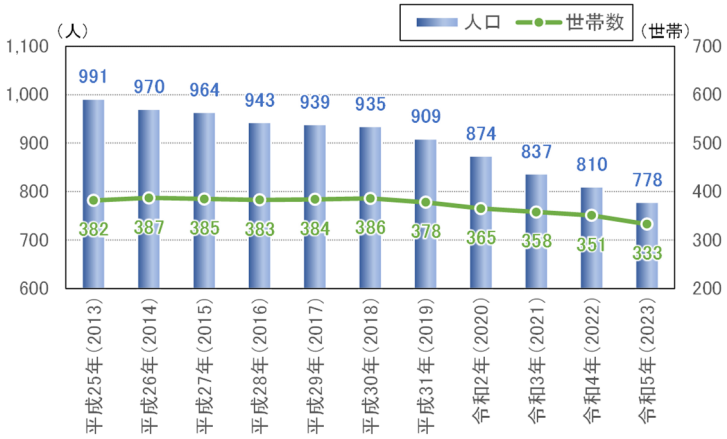
人口・世帯数等（令和５年４月）

人　　口	778 人
世 帯 数	333 世帯
高齢化率	43.5 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移（過去10年間）



区域の概要

立　　地　集落の北側は日本海に面し、東西に山が迫る。谷の南側から流入する二又川を合わせた大栃川が北流して日本海に注ぎ、海岸近くを国道 178 号が走る。JR 山陰本線が集落南側の山裾を走り、無人の諸寄駅がある。

地名由来　古くは「諸磯」と書いたが、大化の頃、表米親王が西国に出陣の際、この地に兵を集合させた。諸々の兵を寄せたことから「諸寄」の字に改めたと言い伝えられている。(『美方郡誌』)

歴 史 等　古くから歌枕の地「雪の白浜」として知られ、『枕草子』には「浜は…もろよせの浜」とある。戦国期には、芦屋城を含めて、毛利方の但馬侵略の前進基地の一つになった。

近世の諸寄村は、豊臣政権下では太閤蔵入地（豊臣氏の直轄地）で、江戸時代には、慶長10 年（1605）旗本宮城氏知行、正保元年（1644）幕府領、寛文8 年（1668）豊岡藩領、享保12 年（1727）からは幕府領となった。家数は宝暦10 年（1760）305、寛政 12 年（1800）397、嘉永元年（1848）418、安政5 年（1858）477。天保5 年（1834）の『但馬国郷帳』（天保郷帳）の村高は 291 石余。諸寄港は天然の良港で、諸廻船が飲料水や諸寄砥石の積み出し、また風待ちとして寄港しており、諸廻船往来改帳によると文政9 年（1826）～天保 6 年（1835）に入船した諸国の船は 869 艘に及ぶ。

明治 22 年（1889）西浜村の大字となり、昭和 29 年（1954）からは浜坂町の大字となる。明治 24 年（1891）の戸数 537、人口は男 1,130・女 1,152。

これまで把握している文化財

文化財の件数　108 件　**（うち指定等文化財**　16 件**）**

大分類	中分類	小分類	把握件数			指定等
有形文化財	建造物	建築物	6	9	51	0
		石造物	0			0
		工作物・その他の構造物	3			0
	美術工芸品	彫刻	2	42		0
		絵画	2			2
		工芸品	30			9
		書跡・典籍	2			0
		古文書・歴史資料・考古資料	6			0
無形文化財		音楽	0	1		0
		演劇	0			0
		工芸技術	0			0
		その他の無形文化財	1			0
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	7	10	25	0
		祭具	2			0
		民具	0			0
		その他の有形の民俗文化財	1			0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	7	15		2
		民俗技術	0			0
		食文化	4			0
		民間説話・俗信	4			0
		その他の無形の民俗文化財	0			0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	2	18	29	0
		古墳・その他の墓	1			0
		城館跡・寺社跡	1			0
		街道・古道等	1			0
		戦争遺跡	1			0
		その他の遺跡	12			0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	2	3		0
		海岸・海浜・島嶼	1			0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0			0
		公園・庭園	0			0
		その他の名勝地	0			0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	8		0
		植物	2			1
		地質鉱物	6			2
文化的景観		生活･生業･風土により形成された景観地			1	0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等			1	0

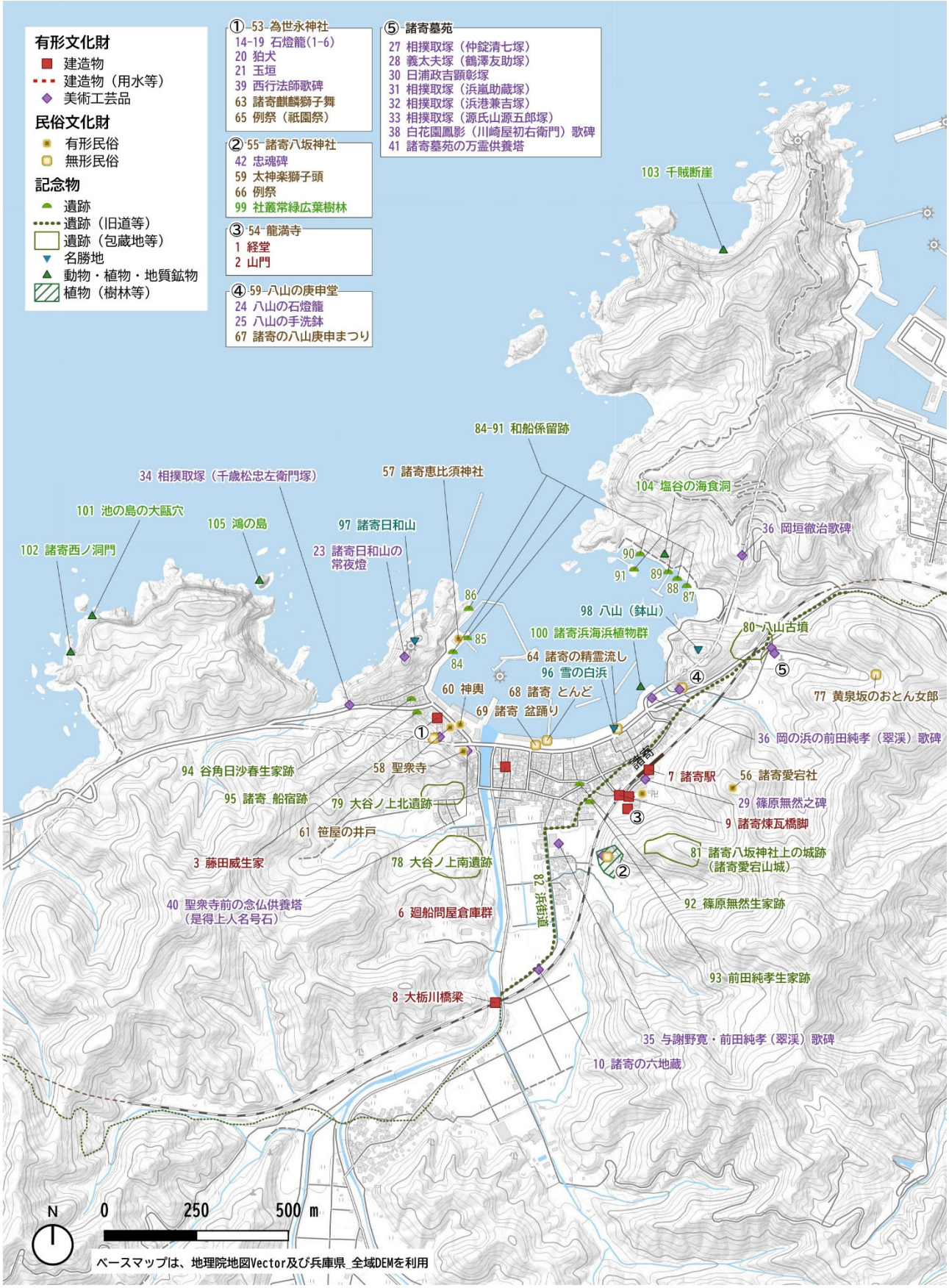
為世永神社船絵馬

諸寄麒麟獅子舞

諸寄の精霊船流し

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和５年４月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

3－01 諸寄

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	龍満寺経堂	江戸時代に建立された経堂。内部に経典を収めた木製のマニ車（輪蔵）が残る。
	2	龍満寺山門	龍宮楼門風の山門。龍満寺第 9 世問厚和尚が設計し、第 12 世玄楼和尚が建立したものと伝わる。
	3	廻船問屋中藤田家（藤田威生家）	北前船で財をなした廻船問屋・藤田家本家の邸宅。障がいを乗り越え、日本画家として活躍した藤田威（大正 6 年（1917）～昭和 47 年（1972））の生家でもある。
	4	廻船問屋東藤田家	北前船で財をなした廻船問屋･藤田家分家の邸宅。敷地面積は約 1,500 ㎡。母屋は築約 130 年。現在はゲストハウス東藤田邸として利用されている。
	5	廻船問屋道盛家	北前船で財をなした廻船問屋・道盛家の邸宅。
	6	廻船問屋倉庫群	廻船問屋の倉庫群が残り、往時の隆盛を偲ばせる。
工作物・その他の構造物	7	諸寄駅	昭和 6 年（1931）、久邇宮が避暑に来られるために仮設駅として設置された。昭和 13 年（1938）に一般駅に昇格。4 月は桜の名所としても知られる。
	8	大栃川橋梁	明治 44 年（1911）の山陰本線開通当時のレンガ造橋脚が残る鉄橋。
	9	諸寄煉瓦橋脚	明治 44 年（1911）の山陰本線開通当時のレンガ造橋脚（イギリス積み）。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	10	諸寄の六地蔵	コンクリート製の祠に、異なる作風の六体の地蔵が安置されている。
	11	龍満寺の阿弥陀如来像	江戸期の木造阿弥陀如来像。
絵画	12	為世永神社船絵馬	為世永神社の眼下に広がる諸寄港は、江戸～明治時代にかけて北前船の風待ち湊として栄えた港で、船絵馬は船主が航海安全を願って奉納したものである。為世永神社には 5 枚の船絵馬があり、特に天保 11 年（1840）の「金毘羅丸・神徳丸図」、万延 2 年（1861）の「幸神丸図」は、それぞれ特色がある絵馬である。船絵馬は、現在八坂神社社務所に保管されている。 町指定文化財
	13	北前船航路図関係（資料）	諸寄日浦家に所蔵されている北前船の航路図は、明治 19 年（1887）に描かれたもので、日本海上針筋図は大坂～瀬戸内海～日本海沿岸～カラフト～東北～江戸までの航路・方位・港を記入したものである。特に、瀬戸内図は、島の状況や航路が細かく描かれており、江戸時代末～明治の前半期にかけての廻漕業を知る貴重な資料である。 町指定文化財
工芸品	14	為世永神社の石燈籠(1)	為世永神社は、航海安全と商売繁盛を祈願した北前船の船主や船乗りたちの信仰や崇拝の深い神社で、境内の石造物群は明治 17 年(1884)から 18 年（1885）にかけて境内改修工事に合わせて、地元をはじめ諸国の船主から寄付を募って建設されたものである。特に灯籠・玉垣には、諸国の北前船関係者の住所と氏名が刻まれており、江戸時代から明治期にかけて北前船によって栄えた浜坂地域の歴史を知る上で貴重な文化財である。 狛犬は、樽屋栄助・松次郎親子によって奉納された出雲・来待石製で、廻船業を営む樽屋が自らの船で運び奉納したと思われる。 境内は近隣の因幡国、遠国の大坂・陸奥・伯州・越前・讃州など、総計 132 本の玉垣で囲まれている。玉垣をたどると、地元の廻船業者、日浦政吉、幸神丸・日浦吉三郎など、47 本の地元業者の寄進がある。 町指定文化財（「為世永神社の石造物群」として）
	15	為世永神社の石燈籠(2)	
	16	為世永神社の石燈籠(3)	
	17	為世永神社の石燈籠(4)	
	18	為世永神社の石燈籠(5)	
	19	為世永神社の石燈籠(6)	
	20	為世永神社の狛犬	
	21	為世永神社の玉垣	
	22	船名額	船名額は、和船の帆柱の後方にある神棚に掲げ、船の守護神として祀られていたもので、額の大きさでその船の大きさが分かると言われている。浜坂地域には、船名額が 4 基残されており、江戸時代末～明治の初めにかけて栄えた諸寄の廻漕業を知る貴重な資料である。 町指定文化財

分類	番号	名称	概要
工芸品	23	諸寄日和山の常夜燈 （文化文政期頃建立）	正徳元年（1711）、諸寄村の庄屋七右衛門は、諸寄港に寄港する船の安全と自家の利益を得るために港口の絹巻島に燈明を建てることを豊岡藩に願い出た。七右衛門は諸国の燈明について調査し、燈明にかかる油代などの経費は、1 年に 1 回ずつ廻船の乗員 1 人につき 22 文を徴収、その見返りに豊岡藩へ運上銀を差し上げることとし、藩は翌年これを許可し、燈明が建てられた。この燈明の一部が現在残る。台座の上、一辺一尺、高さ約三尺の竿で、建立当時の火袋や笠は残っていない。竿には「常燈」と深く刻まれ、側面に「諸廻船問屋中」と彫られている。
	24	八山の石燈籠 （1812 年建立）	文化 9 年（1812）建立。八山の庚申堂の石燈籠。
	25	八山の手洗鉢 （1825 年建立）	文政 8 年（1825）建立。八山の庚申堂の手洗鉢。
	26	龍満寺の結界石 （1794 年建立）	龍満寺の山門入口に立つ。「不許葷酒入山門」と刻む。寛政 6 年（1794）3 月建立。現在撤去されている。
	27	相撲取塚 （仲錠清七塚）	かつて八山（鉢山）麓の浜街道古道沿いに位置していた相撲取塚。「仲錠清七塔・明治三十一年建之」、裏に同門 5 人の記名がある。現在は諸寄墓苑へ移されている。
	28	義太夫塚 （鶴澤友助塚）	かつて八山（鉢山）麓の浜街道古道沿いに位置していた浄瑠璃の義太夫塚。「鶴澤友助塔・明治三十三年庚子閏八月建之」。現在は諸寄墓苑へ移されている。
	29	篠原無然之碑 （建立年不明）	諸寄墓苑にあったものを平成元年（1989）5 月 14 日、篠原無然生誕百年記念事業委員会により、諸寄駅前に移転された。碑文は「篠原無然之碑　天香書」、建立年は不明。
	30	日浦政吉顕彰碑 （1905 年建立）	天保 4 年（1833）に諸寄に生まれた日浦政吉は、明治 25 年（1892）頃に上州群馬県より養蚕技師を招いて養蚕伝習所を建設し、村民に飼育方法を指導。飼育方法を改善して好業績をあげるとともに、他の村々にも養蚕の必要性を提唱して指導した。養蚕振興に尽力した功績は大きく、明治 38 年（1905）3 月に諸寄の有志によってこの顕彰碑が建てられた。
	31	相撲取塚 （浜嵐助蔵塚）	諸寄墓苑に相撲取塚 3 基が並び建つ。建立年・建立者ともに不明。
	32	相撲取塚 （浜港兼吉塚）	
	33	相撲取塚 （源氏山源五郎塚）	
	34	相撲取塚 （千歳松忠左衛門塚）	明治 32 年（1899）6 月建立。建立者は浜本五助他 5 名。村に疫病が入って来ないように建てられたもの。
	35	与謝野寛・前田純孝（翠渓）歌碑 （1944 年建立）	諸寄基幹集落センター前に位置する。前田純孝を顕彰すべく甥の守安（加藤）直孝が奔走し、前田家墓地に建てられたもので、墓地移転の際に白山公園（奥町）の山頂へ運び上げられた。その後、昭和 55 年（1980）の生誕 100 年事業として現在地に移された。純孝と与謝野寛の歌が併刻してある。
	36	岡の浜の前田純孝（翠渓）歌碑 （1969 年建立）	岡の浜公園に、浜を背にして歌碑が建つ。与謝野寛が称賛した一首で、生と死を落葉に重ね、諸行無常、人間のはかなさを詠んだ歌が刻まれている。
	37	岡垣徹治歌碑 （1969 年建立）	日本海の絶景を望む城山公園に位置する。昭和 44 年（1969）8 月、町民、豊岡高校とその同窓会「達徳会」の関係者らが建立したもので、岡垣徹治の代表作の一首が刻まれている。
	38	白花園鳳影（川崎屋初右衛門）歌碑 （1859 年以降建立）	小高い丘の中腹の諸寄墓苑に位置する。墓苑に入ってすぐ右の一角に川崎家の墓があり、裏手に小さな墓石が 3 つあり、その 1 つに「きのふみし 人はととはは 草むらの つゆとこたへて 秋風そ吹く」の歌が刻まれている。

3－01 諸寄

分類	番号	名称	概要
工芸品	39	西行法師歌碑 （1885 年建立）	為世永神社の社叢の一角に位置する。「見渡せば 沖にきぬまき 千年松 波諸寄に 雪の白浜」の歌が刻まれている。西行法師の歌と伝わるが不明。「千年松」は、諸寄港口にあった「千歳松」と呼ばれた巨大な老松で、明治 18 年（1885）1 月の暴風で倒れた。同年 8 月に建立された歌碑である。
	40	聖衆寺前の念仏供養塔 （是得上人名号石） （1820 年建立）	安山岩の自然石型。高さ 160cm。文政 3 年（1820）秋建立。主碑銘は「南無阿弥陀佛是得…」で、是得上人の筆によるもの。世話人であろう女念仏講・樽屋要右衛門・木屋弥治郎の名前も刻まれている。
	41	諸寄墓苑の万霊供養塔 （1837 年建立）	多孔質安山岩の自然石型。高さ 210cm。主碑銘は「天保八丁酉　六百有余人逝　萬霊塔」とあり、天保の飢饉で亡くなった人の霊をまつる萬霊塔。
	42	諸寄八坂神社の忠魂碑 （1922 年建立）	大正 11 年（1922）建立。諸寄八坂神社境内に位置する。
	43	龍満寺のマニ車	マニ（摩尼）車は、転経器ともいい、仏の「口」の象徴を回転する筒に収納した仏具で、回した分の真言を唱えたことと同じ功徳を得られるとされる。
書跡・典籍	44	玄楼和尚の書	諸寄基幹集落センター所蔵。玄楼和尚は、享保 5 年（1720）伊勢国志摩鵜方村に生まれ、9 歳で得度し、曹洞宗長寿寺の齢峯和尚の弟子となる。明和 4 年（1767）龍満寺 12 世の住職となる。「鉄笛倒水」「弁官客承」等著書も多い。
	45	風外和尚の書	諸寄基幹集落センター所蔵。風外和尚は、安永 8 年（1779）伊勢国渡会郡に生まれ、8 歳の時、円珠院安山泰穏和尚のもとで得度。その後画僧月遷の影響を受けた。19 歳で龍満寺玄楼和尚の弟子となり、宇治興聖寺・大坂の当陽軒と転じ、30 歳の時雲水の旅に出る。その折、出雲の穴道湖畔で、勝部家（後の山陰日々新聞社社長）に止宿し、勝部家と周辺の寺院に池大雅の絵が多く蔵されていたため、この画風に傾倒した。40 歳で大坂天満の円通院住職を過て、天保 4 年（1833）4 月三河国足助町香積寺に招かれて 25 世住職となる。ここでも絵をよくし、就中猛虎の図は内外に特に有名である。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	46	立橋信行文書	江戸時代から明治期の諸寄村文書（畜産・教育・神社行政他）。
	47	安本虎之助文書	弘化 3 年（1846）村制度関係文書。江戸時代の俳諧関係文書。
	48	大谷米造文書	江戸時代（文政期（1818～1831））漁業仲買関係文書。
	49	旧西浜村役場文書	諸寄基幹集落センター資料室に保管。江戸時代から昭和 29 年（1954）までの居組・諸寄村文書。特に廻船関係文書。
	50	道盛義男文書	文化 12 年（1815）新造船文書他、廻船関係文書。
	51	諸寄 引き札	引き札は、現在の広告・チラシや新年の暦にあたる。図柄も廻船・洋式化していく船・汽船・運送業の基地としての港・倉庫・陸上交通の発達・汽車など、明治期に近代化していく日本の社会情勢を知ることができる。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
その他の 無形文化財	52	漁業（松葉ガニ、ホタルイカなど）	町内には浜坂港、諸寄港、釜屋港、居組港、三尾港（大三尾・小三尾）の漁港がある。新温泉町での代表的な漁法は「沖合底引き網漁」で、9 月から翌年 5 月末まで漁を行い、松葉ガニやホタルイカ、ハタハタ、エビ、カレイなどが水揚げされる。浜坂・諸寄漁港の松葉ガニ水揚げ量は日本一である。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	53	為世永神社	創建年や由緒は不明であるが、寛政年間（1789～1801）再建の棟札が残る。明治 26 年（1893）の社寺再明帳には、祭神は「伊弉諾尊、伊弉冉尊、塩土翁尊」となっている。塩土翁尊は、海幸彦・山幸彦神話に登場する塩路・海路をつかさどる海の神である。明治 17 年（1884）に玉垣等の改修工事が行われており、「為世永神社御玉垣寄付記」が残されている。
	54	龍満寺	本尊は宝冠釈迦如来で、もとは天台宗の寺として創建され、慶長 9 年（1604）、曹洞宗に改宗された。宝永 2 年（1705）と天保 12 年（1841）の火災により山門・鐘楼・経蔵を除く堂塔を焼失し、後に法堂・庫院・開山堂・禅堂が再建された。代々高僧を輩出しており、禅道場の中でも「馬北（北但馬）の鬼道場」として全国にも知られていた。中でも第 9 世象山問厚和尚は「牛問厚」、第 12 世玄楼奥龍和尚は「狼玄楼」、その孫弟子の霊潭魯龍和尚は「獅子霊潭」と呼ばれ、摂津（神戸市）光明寺の「虎仏通」・大円仏通和尚とともに禅の四天王と言われた。北前船との関わりも深く、「船往来宗門手形」の発行や文政 3 年（1820）には伯州橋津浦の船が諸寄沖で難破した時に亡くなった水夫を弔った記録が残されている。
	55	諸寄八坂神社	祭神は須佐之男命。創立年月は不明。天智天皇元年（668）、夷賊が西国を襲った時にこれを退けた大将軍表米親王が当社に武運長久を祈ったと伝える。明治 6 年（1873）10 月に村社に列せられる。昭和 5 年（1930）8 月 21 日に久邇宮多嘉王殿下が同妃、同王子女殿下と共に参拝された。境内社に稲荷神社（保食神）、三柱神社（素戔嗚尊）、地主神社（大国主命）がある。
	56	諸寄愛宕社	かつての諸寄愛宕山にあったとされる山城（諸寄愛宕山城）跡の主郭に祭られている小祠。
	57	諸寄恵比須神社	諸寄港日和山下に祀られており、諸寄五社参り「絹巻神社」として信仰されている。
	58	聖衆寺	浄土宗勝願寺（浜坂）の末寺で、承応元年（1652）祐西和尚の開基と伝えられる。本尊は阿弥陀如来であるが、諸寄地区では、一緒に安置されている十一面観世音菩薩も信仰されている。境内には是得上人の筆によるユニークな書体の文政 3 年（1820）に建てられた名号碑がある。
	59	八山の庚申堂	八山の頂に位置して村の守護の庚申さま「青面金剛立像」を祀る。
祭具	60	諸寄八坂神社の太神楽獅子頭	諸寄八坂神社社務所に所蔵されている太神楽獅子頭。詳細は不明。八坂神社の例祭(10 月 15 日)は、神事のみ。諸寄地域内の為世永神社の例祭は 7 月 14 日・15 日に行われ、麒麟獅子舞が奉納される。天保 3 年（1832）境港より獅子頭を貰って始まると伝わる。
	61	諸寄為世永神社の神輿	為世永神社の神輿は、寛政年間(1789～1801)に製作され、明治 22 年(1889)に修繕されている。老朽化が著しく、昭和 28 年(1953)京都で新調されたものである。
その他の有形の民俗文化財	62	笹屋の井戸	北前船の船乗りたちの飲料水を汲んだ井戸。笠屋は為世永神社鳥居脇にある宮大家。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	63	諸寄麒麟獅子舞	7 月 14・15 日の為世永神社例祭で奉納される。神前、御旅所で奉納し、各戸を門付して、家内安全、疫病退散などを祈願して舞う。猩々が先導役で二人立ちの獅子舞である。諸寄麒麟獅子舞保存会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として）

3－01 諸寄

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	64	諸寄の精霊船流し	諸寄漁港で 8 月 15 日に行われる。起源は不明であるが、江戸時代から行われてきたとの伝承があり、近年まで「サライ船」と呼ばれていた。現在は諸寄盆船流しの会が主体で実施する。精霊流しは、お盆に故人の霊を船に乗せ、極楽浄土へ送り出す伝統行事。諸寄では初盆の家だけでなく、区民の協力、理解のもと区民の祖先霊と共に「精霊船」を仕立てて初盆の家と共に仏送りをする風習となっている。 県登録無形民俗文化財
	65	為世永神社の例祭（祇園祭）	毎年 7 月 14・15 日に行われる。北前船で財をなした廻船問屋たちが財政支援し、現代まで伝えられる京都祇園祭に由来する祭礼。平成 16 年(2004)には約 60 年ぶりとなる浦安の舞が奉納された。
	66	八坂神社の例祭	10 月 15 日に行われる。
	67	諸寄の八山庚申まつり	毎年 5 月の連休の次の週の日曜日に行われる。諸寄庚申堂のある八山は、諸寄の入口に当たり、かつ鬼門の位置にも当たる。諸寄湊を行き交う北前船や漁船も一望できる場所でもあるため、ここにお堂を建て、青面金剛尊を祀り、村へ疫病や疫神が入るのを防ぎ、諸寄湊を望んで航海安全、大漁を祈願してきた。当日は、本尊の青面金剛尊を御開帳し、観音山相応峰寺住職により、信者各々の諸願成就のため加持祈祷が行われる。
	68	諸寄 とんど	1 月 7 日の早朝、お飾りさんや御神札・御守などをお焚き上げ、感謝と一年の無病息災を祈願する。
	69	諸寄 盆踊り	8 月 14 日に行われる。
食文化	70	へしこ	鯖などの青魚を塩漬けにして、さらに糠漬けにした郷土料理。越冬の保存食。
	71	ぜんざい	正月に食べる。
	72	おはぎ	庚申まつりで食べる。
	73	あらめ	葬儀で食べる。
民間説話・俗信	74	魔物	※『はまさかの民話（Ⅰ）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p38 参照 ※『但馬海岸　但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和 49 年、兵庫県教育委員会発行）p163 参照
	75	青早朝に赤早朝	※『但馬海岸　但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和 49 年、兵庫県教育委員会発行）p175 参照
	76	イカはだしがら	※『但馬海岸　但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和 49 年、兵庫県教育委員会発行）p178 参照
	77	黄泉坂のおとん女郎	※『はまさかの民話（Ⅰ）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p36 参照 ※『但馬海岸　但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和 49 年、兵庫県教育委員会発行）p156 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	78	大谷ノ上南遺跡	弥生～古墳時代の散布地。土師器片数点が散布。
	79	大谷ノ上北遺跡	弥生～古墳時代の散布地。土師器片数点が散布。
古墳・その他の墓	80	八山古墳	古墳時代の古墳。明治 39 年（1906）に鉄道敷地内より須恵器片が出土。全壊。
城館跡・寺社跡	81	諸寄八坂神社上の城跡（諸寄愛宕山城）	中世の城館跡。断続的な小曲輪群の配置から、築城起源は南北朝期に遡ると思われるが、主郭や一部曲輪、堀切、竪堀は戦国期の改修と考えられる。『但馬国にしかた日記』（弘治 3 年（1557））には、諸寄（「はまのぶん」）に松堀隠岐殿・松堀右京進などの地侍層が居住しており、彼らが城主の可能性が考えられる。

分類	番号	名称	概要
街道・古道等	82	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道 178 号に沿い、道幅は街中で約 2 間、平地は 1 間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第 5 次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
戦争遺跡	83	諸寄村灯明堂台場	天保 13 年（1842）以降に久美浜代官所が設置したと思われるが、遺構は不明である。
その他の遺跡	84	和船係留跡（諸寄港西岸：尾崎造船所下）	計 3 個。棒杭（石杭）船繋ぎ施設 1 個、もやい岩船繋ぎ施設 2 個。
	85	和船係留跡（諸寄港西岸：恵比須社下）	計 6 個。棒杭（石杭）船繋ぎ施設 3 個、もやい岩船繋ぎ施設 1 個、めぐり船繋ぎ 2 個。
	86	和船係留跡（諸寄港西岸：湾洞北）	棒杭（石杭）船繋ぎ施設 1 個。
	87	和船係留跡（諸寄港東岸：第一岩礁先端部）	棒杭（石杭）船繋ぎ施設 1 個。
	88	和船係留跡（諸寄港東岸：第二岩礁先端部）	計 4 個。棒杭（石杭）船繋ぎ施設 3 個、めぐり船繋ぎ 1 個。
	89	和船係留跡（諸寄港東岸：T 字型防潮堤つけ根付近）	計 3 個。棒杭（石杭）船繋ぎ施設 1 個、めぐり船繋ぎ 2 個。
	90	和船係留跡（諸寄港東岸：平島対岸）	めぐり船繋ぎ 1 個。
	91	和船係留跡（諸寄港東岸：平島）	平島は長さ 25m、幅 8.5mの平らな島であり、計 10 個の係留施設が残る。棒杭（石杭）船繋ぎ施設 5 個、もやい岩船繋ぎ施設 2 個、めぐり船繋ぎ 3 個。
	92	篠原無然生家跡	篠原無然は、明治 22 年（1889）に諸寄に生まれ、本名を禄次といった。禄次の家は、昔、廻船問屋をしてかなり栄えた家であったが、彼が育つ頃には暮らしもあまり楽ではなかったとされる。生家跡には生誕地の碑と解説板が建てられている。飛騨聖人と称された社会教育者であった。
	93	前田純孝生家跡	諸寄出身の明星派歌人前田純孝（明治 13 年（1880）～明治 44 年（1911））は、与謝野鉄幹・晶子らとともに「明星」に短歌・詩などを精力的に発表し、「東の啄木、西の純孝」と称されている。生涯 2 千首におよぶ作品を残している。生家の詳細な場所は不明であるが、吉田町にあったとされる。
	94	谷角日沙春生家跡	諸寄出身の画家谷角日沙春（明治 26 年（1893）～昭和 46 年（1971））は、大正 7 年（1918）の文展に入選以来、京都市展、帝展などに入選し、昭和 9 年（1934）に帝展無鑑査となり、中央画壇にその地位を築いた。美人画や曲線画に限界を感じ、直線画を創作するなど、晩年は仏画を好んで描いた。生家の詳細な場所は不明。
	95	諸寄 船宿跡	多くの北前船寄港地では、廻船問屋が「船宿」も兼ねており、諸寄港には、文政 9 年～天保 6 年（1826～1835）までに 9 軒の船宿があったことが知られている。廻船問屋兼船宿は、為世永神社下、川中町、山根町内にあったとされる。

3－01 諸寄

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
海・海岸・島嶼	96	雪の白浜	諸寄を流れる大栃川の上流は、花崗岩質のため、諸寄の浜は白く輝き、古くから「雪の白浜」として名高く、古典・和歌などに多く詠まれている。
山岳・高原・丘陵	97	諸寄日和山	日和山の灯台（現在：照射灯）の下に広がる岩場には、かつて北前船を係留した棒杭の穴がいくつも残っている。ここには、日本海が開き始めた頃に噴出した火山岩と、その中にマグマが貫入して冷えて固まった「岩脈」が見られる。この岩脈は対岸のくずれ浜の湾に続く。近世には北前船の船乗りたちが出港前に日和を見た場所。常夜燈の一部が残る。
	98	八山（鉢山）	山頂には村の守護の庚申「青面金剛立像」が祀られ、文化 9 年（1812）の石燈籠や文政 8 年（1825）の手洗鉢が残る。独立した山で、諸寄湾が眼下に広がり、魚見台の役目を果たした。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	99	八坂神社社叢常緑広葉樹林	諸寄八坂神社周辺の森には、針葉樹のスギ・広葉樹のケヤキ・常緑樹のシイなど、大木を中心に大小様々な樹種の木々が茂っている。 町指定文化財
	100	諸寄浜海浜植物群	ハマナス、ハマヒルガオなど海岸性植物群地。令和元年（2019）7 月に諸寄海岸の砂浜で 20 種の海浜植物が確認され、うち 4 種が兵庫県レッドリストに該当する。また、北前船のバラスト水で種子が運ばれたオニハマダイコンの自生が確認されている。
地質鉱物	101	池の島の大甌穴	甌穴は、河川や浅い海底で平らな岩盤の凹みにあった小石が水や波の力で回転してできる丸い穴で、ポットホールとも呼ばれている。池の島の大甌穴は、東西 16m南北 10m、探さ 5mの穴で、このような巨大なものは珍しく、縄文前期の海面上昇を立証する学術的に貴重なものである。 県指定天然記念物
	102	諸寄西ノ洞門	諸寄西ノ洞門は、県指定の諸寄東ノ洞門と合わせて「諸寄東西洞門」と呼ばれている。南北方向の断層と直行するやや東西方向に向いた洞門で、幅 5.5m、奥行き 7mで、岩脈の弱線に沿って浸食されてできたものである。 町指定文化財
	103	千賊断崖	千賊断崖は矢城ケ鼻の西、東ノ洞門の脇にある高さ 180mの但馬海岸最高の断崖。八鹿累層（中新世）の玄武岩質安山岩の互層からなる暗黒色の垂直な崖で、崖の模様が藁束を積んだように見えることから千束断崖とも言われている。
	104	塩谷の海食洞	塩谷では板状節理が発達した火山岩が波の力でえぐられ、洞窟になっている。入口より内部の方が広く、人工的に作った蔵のような形状をしている。
	105	鴻の島（神の島）	流紋岩の岩脈からなる竹の子のような形の島。古くは鉱石が採掘されていた。
	106	海金剛	諸寄湾から釜屋湾まで 1 kmの外海岸は、凝灰角礫岩の断崖が 60～80mの高さで続き、散在する小島群を含めて海金剛と呼んでいる。釜屋港の東側から諸寄港の西側までが環境省の「海域公園」に指定されている。玄武岩の溶岩火山砕屑岩を主とする礫岩からなる。波食棚や波食崖、海食台が多くみられる。動植物の生息に適した複雑な地形をしており、海中生物では、タマイタダキ等の紅藻類や、ウメボシイソギンチャク類が岩肌にみられる。ササノハベラなどの色とりどりの魚類も豊富に生息している。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	107	諸寄港	諸寄港は、江戸期から明治期にかけて、日本海を北前船が往来した当時、「風待ち湊」としてにぎわった港である。江戸時代に発刊された航路誌『日本汐路細見記』には「もろよせ湊」として紹介されている。諸寄廻船の稼働記録や廻船業ぶりは、各地の客船帳にも記録として残されている。港湾内の和船を留めた係留杭の跡など、廻漕業で栄えた当時の面影が至る所に残る。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・城下町・農漁村等	108	諸寄集落	山根小径、谷小径、日和見小径、踊場小径、札場みち、愛宕みちなどの数多くの路地があり、山を背に路地の突き当りは海に出るという港町特有の地形・町割りである。諸寄湊で荷下ろしされた石材や、石州瓦の屋根をはじめ、まちなかにはかつての北前船寄港地としての繁栄を物語る文化財が所々にみられ、個性豊かな港町の景観をつくりだしている。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『為世永神社麒麟獅子舞』（平成 28 年 3 月 31 日、諸寄麒麟獅子舞保存会編集・発行）